

ちょっとした時間に野鳥を楽しむ

かとう
加藤ゆき (学芸員)

私が本格的に野鳥観察をはじめたのは1990年ごろ、鹿児島県の大学に入ってからのことです。当時は、時間だけではたくさんあったので、長期休みや休講のたびにいろいろな場所へ出かけ、かなりの種類の野鳥を観察したものでした。しかし、勤め始めると時間が思うように取れません。そこで遠出はやめ、自分の身近な場所で野鳥を観察、研究対象とするようになりました。最初は鹿児島県の地方都市に勤めていたので、通勤途中に田んぼでタマシギやタゲリをみたり、職場の横の河原で調査を行ったりしました。そして、冬になると多数渡来するツル類を研究対象としていました。

しかし、現在住んでいる地域は、神奈川県内では比較的自然が残っているといわれていますが、鹿児島とは比べ物にならないほど野鳥の種類は少なく、少しがっかりしています。それでもよく家の周りを見ていると、庭には一年を通してスズメ(図1)をはじめシジュウカラやヒヨドリ、ムクドリ、キジバトがきて、家の前の空き地では4月になるとヒバリがさえずり、秋にはチョウゲンボウ(図2)やモズ、冬になるとホオジロ類やツグミがみられるといった具合に、なかなか季節感に富んでいます。また、勤め先である博物館でも、一年をとおして建物の周りでインビヨドリやハクセキレイ、セグロセキレイがみられ、早川ではカワガラスやカワセミ、カルガモを楽しむことができます。

このように、自宅と博物館を往復するだけでも、年間30種以上の野鳥を観察できます。時間さえあれば身の周りで鳥を探し、というほとんど職業病とも言える行動が楽しみの元になっているわけです。

今回は、双眼鏡を持たずにちょっとした時間を利用して楽しむことができるバードウォッチングのポイントを紹介しましょう。

庭や公園で楽しむ

私たちにとって一番身近な緑地は庭ではないでしょうか。個別の庭がない集合住宅でも、共用の公園や屋上庭園、ちょっとした花壇などが設けられているところも多く見受けられます。また、住宅地には子どもたちの遊び場として公園があるところも多いですね。

そのような緑地には、意外と野鳥が集まってきます。高さ2~3m程度の樹木はシジュウカラやキジバトにとって絶好の巣づくりの場所です。公園などによく植えられているネズミモチやナナカマド、サクラなどの実はヒヨドリやムクドリ、イカル(図3)、時にはレンジャク類のエサとなります。生垣のツバキやサザンカの花が咲くと、メジロやヒヨドリが蜜を吸いにやってきます。花壇では、葉についた小さな虫を食べようとハクセキレイが歩いているときもあります。

少し大きな公園には人工の池やせせらぎが作られていることもあります。そのような水場には、シジュウカラ(図4)やヤマガラ、メジロ、キセキレイ、ヒヨドリ(図5)などが水飲みや水浴びにやってきます。なかにはサギ類やカワセミのように餌場として利用するものもあります。野鳥の目には、街中の緑地や池は、オアシスのようにうつるのかもしれませんが。

駅で楽しむ

駅に野鳥なんて、と思われる方も多岐かもしれませんが、意外と見られるものです。郊外の駅ではホームに落ちているお菓子のくずを狙ってスズメが歩き、

春になるとホーム上の屋根と柱のすきまではハクセキレイやムクドリが巣づくりをしていることもあります。また、近ごろはツバメが構内で堂々と子育てをしている光景も見かけます。電車を待っているときもポイントです。JR新宿駅は日本で最も乗降客が多く、頻りに電車が入ってくる駅の一つに挙げられると思いますが、そのような騒がしい中でも、線路ではハシブトガラスが、ホームの端ではスズメがエサをさがしています。以前、京急蒲田駅で電車を待っていたときには、すぐそばを流れる川でカワウとスズガモが泳いでいたこともありました。厳密にいえば駅の中ではありませんが、ホームから楽しむことができる光景ではあります。

街路樹で集団ねぐらを楽しむ

都市緑化の一環として、少し大きな道路沿いや駅前の広場、ロータリーなどには樹木が植えてあることが多いですね。クスノキであったりサクラであったり、種類はさまざまです。あの街路樹が秋から冬にかけて小鳥のねぐらとなっていることをご存知でしょうか。夕方、周囲が薄暗くなってくると、あちらこちらから集まり始め、とてもにぎやかになります。たいていは、スズメやハクセキレイ、ムクドリなどで、違う種類が混ざることあまりなさそうです。これらの鳥は、繁殖期にはつがいごとに分かれて子育てをしますが、繁殖が終わった秋から冬にかけては集団でねぐらをつくる、という習性を持っています。数百羽、数千羽もの小鳥が夕方になると集まり、集団で眠る光景は圧巻です。

見つけ方は簡単です。夕方、「チュンチュン」だとか「チツチツ」、「ギユルギユル」などにぎやかに鳴く声を頼りに探すこと



図1. スズメ.



図2. チョウゲンボウ. 重永明生撮影.



図3. イカル. 重永明生撮影.

もできますし、ねぐらとなっている樹木の下はフンで真っ白になっています。おもしろいことに、ねぐらとなる樹木は決まって人が多くにぎやかな場所か、あるいは街灯で明るく照らされているような場所にあり、あまりさびしい場所には見られません。これは、にぎやかな場所のほうが、フクロウなどの捕食者に襲われる危険性が低いからだ、といわれています。

建物で野鳥の子育てを楽しむ

なかには、建物で子育てをする野鳥もいます。家の軒先にお椀型の巣を造るツバメ、戸袋や排気口などに入り込むスズメやムクドリなどがその代表です。イワツバメやヒメアマツバメは高層建造物に集団で巣を造りますし、意外なことにビルの屋上や排気ダクトでチョウゲンボウが繁殖した例もあります。また、警察が出動し、道路封鎖をさせたことで有名になったカルガモ(図6)は、皇居近くのビル街の人工池で繁殖しました。これらの鳥は元々は自然の環境の中で繁殖をしていたのですが、おそらく人間があらゆる環境に進出するにつれて人工建造物が増えたため、鳥のほうもそれに適応していった結果なのでしょう。

身近で野鳥の子育てを観察できる絶好の機会ですが、観察をするときは巣に近づきすぎないようにしてください。人間が頻繁に近づくと、親鳥は必要以上に警戒し、繁殖を放棄してしまいます。すると、卵はふ化せずヒナは死んでしまいます。巣を見つけても覗きたい気持ちを抑え、少し離れたところからそっと観察するようにしてください。

電車や自動車から楽しむ

私の自宅から博物館まで、私鉄を乗り継いで40分ほどかかります。この間、晴れている日には車窓から景色を眺めています。特に小田急線渋谷駅から栢山

駅にかけて広がる田園地帯では、知らないうちに野鳥を探しています。観察のポイントは水路やあぜ、河川を見逃さないようにすることです。春にはつがいとおぼしきカルガモがあぜに座り込み、その側を巣材をくわえたムクドリやハシボソガラスが飛んでいます。初夏にはコアジサシが酒匂川周辺でみられ、秋から冬にかけてチョウゲンボウやノスリなどが飛んでいることもあります。

自動車の助手席に乗っているときも絶好の観察機会です。例えば、自宅から博物館へ車で行くときに小田原厚木道路を通ることが多いのですが、二宮ICから小田原方面へ車に向かっていくと、料金所まではカラス類やおオタカ、ヒヨドリがよく見られます。そして酒匂川では冬はノスリ、初夏にはコアジサシ、イワツバメが飛び、運が良いと電灯に止まっているウミネコやヤマセミも見られたりします。小田原西IC付近では、冬にハイタカ(ツミ?)が見られたときもありました。一方、海岸沿いを走る西湘バイパスは海鳥の宝庫です。ウミネコ、セグロカモメといったカモメ類や、時としてミズナギドリ類も見られます。首都高速道路を走っていたときには、新宿あたりでチョウゲンボウがトビを追いかけているのを観察したこともあります。

このように、電車や自動車に乗っている退屈な時間を利用して、バードウォッチングを楽しむことができます。ただし、観察できる時間は数秒程度ですから、あまり小さな鳥は識別できません。また、事故の元になるので、自動車を運転しながらの観察は絶対に止めてください。

うれしい発見

仕事柄、地方へ出張することが一年に何回かあり、私用でもいろいろな場所へ出かけます。その移動の途中におもしろ

い経験をしたことがあります。2004年冬に東海道新幹線に乗って名古屋方面へ向かっていたときのこと、天竜川(静岡県)を通ったとき、河原にたたずむコウノトリを発見しました。見られたのはほんの数秒でしたが、その特徴のある姿を間違えるはずもないと考え、兵庫県立コウノトリの郷公園へ報告しました。そうしたところ、確かにその周辺で確認されているが、新幹線に乗って見られるなんて運が良いねと言われました。

沖縄のある空港では、飛行機に乗った後、発着の都合により駐機場で待たされたことがありました。手持ち無沙汰なので外を見ていると、オオチドリがメダイチドリとおオメダイチドリと一緒に飛行機のすぐ横の芝生にいたこともありました。どちらも偶然に発見したとはいえ、ちょっとうれしい瞬間でした。

「鳥」という動物は、おそらく植物や昆虫と並んで、私たちにとって最も身近な生きものの一つでしょう。公園ではスズメやキジバトがみられ、人工建造物が多い都心でもヒヨドリやカラスの姿を必ずといってよいほど見かけます。この季節、渡来した夏鳥を楽しみにハイキングに出かけたり、旅行をかねて固有種や珍鳥、迷鳥を見に遠くの島へ行ったりするのも楽しいのですが時間もお金もかかります。その点、移動途中や週末の休みなど、ちょっとした時間を利用して野鳥を見るのは手軽で誰にでもでき、時にはうれしい発見もあります。ちなみに、このような場所に野鳥なんていない、双眼鏡を持っていないから見分けられない、といった先入観を持たないほうが楽しむことができます。私の知人は、山口県の山中でドライブ中にコウノトリを、秦野市の丘陵地で散歩中にアカコッコを見つけたこともありますよ。



図4. シジュウカラ. 重永明生撮影.



図5. ヒヨドリ. 重永明生撮影.



図6. カルガモ.